

坂根正弘著 「日本品質管理学会、会長就任にあたって」日本品質管理学会機関誌「品質 Quality」
2012 年第 1 巻、2012 年 1 月刊を読む

日本品質管理学会、会長就任にあたって

1. (1) 米国発の金融危機は各国の実体経済へ悪影響を及ぼし、EURO 圏の債務危機に発展し成長市場はアジア・BRICS に移った。
- (2) 日本社会は人口減少し少子高齢化が加速している中で、東日本大震災の復旧復興に産官学が総力であたっている。
- (3) さらに地球温暖化の問題に対処が必要である。
- (4) これらに対応するためには国家レベルの全員参加の経済成長戦略が重要であり、企業が国際競争力を高めていくことが求められている。
- (5) このためには、企業は環境変化に迅速に対応できる体質を作り、自社の強みを磨き弱みを克服していくことが必須である。
- (6) 日本の経済成長は、日本のモノ作りの強みを生かして「安全・安心」と「信頼性」を基盤とした高付加価値の製品・サービスを、ICT を駆使してお客様の視点に立って創出していくことが大事である。
- (7) つまり「製造業のサービス化」により国際競争力を強化することに掛っている。
- (8) それは学会が中長期計画の方針でうたった 4 本柱 **Q** の確保、**Q** の展開、**Q** の創造、共通領域の実践でもある。モノとシステムそしてサービスを組み合わせ、品質保証していくことである。
2. (1) 本学会の「品質立国ー日本の再生」の取り組みは社会の繁栄への大きな貢献活動である。
- (2) 第三期は前期の中期計画の 4 本柱を継承し「安全・安心」と「信頼性」を基盤とした繁栄する社会の構築に向けて、産官学が取り組む課題や学会員のニーズにあったテーマを進めていく。力強く推進されるように関係各位に願います。
3. (1) 「**Q** の確保」とは、当たり前の品質であるが、技術の革新や複雑化に伴い品質トラブルや事故が発生し、その対応のまずさから社会的信用を失うケースが発生している。

(2) 社会が求める「安全・安心」を確保するためにさらなる **TQM** の深化と革新が求められている。

(3) 複雑化する問題解決にあたってはアプローチの方法やツールの開発が必要であり、特に **ICT** の方法やツールの開発が必要であり、特に **ICT** 活用による遠隔制御システムといった新しい技術を補充する品質技術やアプローチの方法の開発が大事である。

(4) それらの迅速な活用については、情報公開や共有化を進め一層の産学連携活動が必要である。

4. (1) 「**Q** の展開」とは、製造業で培った **TQM** 活動を、もっと広くサービス業・運輸業・小売業、さらに公共機関、教育、行政までに展開していく活動である。

(2) 特に原子力発電に関する安全管理などインフラ分野の安全性と信頼性の向上、および文科省初等中等統計教育の整備に貢献していきたい。

5. (1) 「**Q** の創造」とは、日本企業の国際競争力を強化するために顧客の潜在ニーズを掘り起こす活動である。

(2) サービス分野の顧客価値創造に加え革新的な品質管理の理論や技術・開発へ挑戦し産業界で試行し、社会に的確に情報発信していきたい。

6. (1) 「共通領域」では、学会員の漸減傾向に歯止めをかけ力強い学会活動を進めていきたい。

(2) **QC** 検定の受験者が増加しており、これは企業が品質管理の重要性を認識し人材育成のニーズの現われであり、学会員の拡充へつなげていきたい。

7. 最後に、社会の展開、繁栄に貢献することが、学会や所属事業体および会員各位の発展につながると認識しており、会員各位の積極的な参加をお願いしたい。

[コメント]

坂根正弘・コマツ取締役会長の日本品質管理学会、新会長就任のあいさつ。日本の最大の強みである **TQM** やデミング賞を頂点とする「品質」向上の取り組みを、製造業だけではなく、サービス産業はじめすべての領域にまで広げようという考えは高く評価される。是非少しずつでも参加したい。